

図書館だより

'79.12

汽車の中で

三浦良一(育児学)

私の人生の中で、汽車がいろいろな意味で大きな役割を占めていたように思われるのは、汽車に乗って考えたためではない。現在の汽車は、電車か油車というべきものであろうが、正真正銘の汽車が私の生活の場に現われたのは昭和7年のことで、私の小学校入学の前の年であった。田舎の生家の裏の川に鉄橋があり、子供の頃は、朝6時頃、上りの一番列車が大きな音を立てて通る頃に起床し、夜7時過ぎに下りの終列車が停車場で鳴らす汽笛を合図に床につくというのが日課であった。父が家業や組合の仕事のために旅行することが多かったので、夕方の下りの汽車が着く前には遊びから戻って、お土産を待つのも常であった。旧制中学に入ってから、汽車は大切な生活の一部となった。毎日1時間位の汽車通学をしたからである。この往復1時間づつは、予習や復習には適当な時間で、英語の単語を暗記したり、数学の宿題を解いたりしたのは殆ど汽車の中であった。私にとっては汽車は動く勉強部屋であったわけである。当時の客車は重くてスピードが遅いために揺れが少なくて本を読むのには好都合であったが、多少の揺れがあるので、英習字などを忘れて汽車の中で書いて行くとあまり良い点数を貰えなかったのを覚えている。毎朝早く起きて通学することは発育期の私には非常に為になったことで

あるし、今でも朝早い仕事や運動がスムーズに行くのも、あの5年間の汽車通学のお陰であろうと思っている。また、勉強ばかりでなく、毎日眺める車外の景色も移り変りがあって、知らず知らずの間に自然を楽しんだり、観察するのに役立ったようである。私の通学路は大部分海岸線で、四季だけでなく、毎日のように変化する海を眺めていたことが、私の性格にも影響を与えたのかも知れない。札幌の大学生の時は下宿をしていたので、中学の頃よりは、季節の変化を敏感に感じなくなったようである。

私たち地方出身者が札幌で学ぶことは、いわゆる遊学ということになるわけであるが、昔と違って、汽車ででかけるので、学ぶということや仕事をするのに汽車が関係することが自然に身につけているのでなからうか、特に私の場合、仕事とか研究のために汽車ででかけることに楽しさを覚えるのは、幼時より、汽車が生活の大事な一部になっていたためと思われる。

それにしても最近の汽車は便利になったものの、車体の軽さと速いスピードのために揺れが大きくて車内での読書には不向きになってきたのが残念である。一方、地方での仕事を終えたあとの車内で一杯やりながら景色を眺めるという楽しみは残されているので帳消しであるが。

図書館をあなたのものに

— 人物・人名（日本）の探し方 —



この号は、12月にお手もとに届けられる予定ですが……12月と言えば年末の気忙しさを別としても、クリスマス、北海道では長い冬休み、そして年輩の方々は義士講なのでしょうか。何年か前のNHK大河ドラマ「赤穂浪士」、初めの方に大石内蔵助が、決意を胸に秘めながら、さりげなく武鑑によって米沢上杉家の項をたしかめ、家老職が千坂兵部であることをチェックするくだりがあります。武鑑には、種々の形式のものが見られますけれども、簡単に言うと大名、旗本などの役職、役料、屋敷その他をまとめたもので、現在の職員録（大蔵省印刷局）のようなものであります。

この武鑑は、武士にも町人にも重宝がられて多く用いられました。しかし公式の出版物ではなく、間違った記載も見られて「武鑑のみにより、物事を処理すべからず。」と幕府の注意が記録に残っております。

さて昔から、特定の人物について調べたい、あるいは特定の人名を探して知りたい、そんな時に用いる参考書がありました。今月はそれらの資料を開きながら、人物・人名を識る手がかりを考えましょう。先の赤穂浪士の例の、地方分国の宰相である大石内蔵助が、人名検索のためのツールを手もとに備えていたこと。また巷間流布本である不完全なツール（武鑑）の利用に関して、中央政府の事務当局が関係筋に注意を与えていたことなど。どちらにも大変近代的

な感じがあります。

その理由は、人物・人名を調べるためには、目的に応じた資料をよく選んで用いなければならない。どれ程すぐれた資料でも1冊のみで完全な調査は困難で、複数資料による確認が必要なこと。などと今日でも原則とされていることに通ずるものがあつたからでありましょう。

大の付く大事典

①大日本人名辞書 全5巻（講談社 昭49）

順序から言うところの事典です。これは国史大系・群書類従等の発行で有名な野村胡堂博士が編纂して、明治19年に発行した大日本人名辞書の流れであります。当時としては画期的な五十音順の人名配列を用い、増補されながら版を重ねました。初版では25,000名が収められましたが、昭和12年の新訂11版では、古代より明治・大正に及ぶ42,000名収録と大冊になりました。本書はこの11版の復刻であります。

項目の多くは、各種文献によって略伝がまとめられ、末尾に出典記入があります。このことが本書の特色で、また欠点でもあります。つまり典拠した文献により、説明に精粗が生じ、また時代、分野による偏りも見られます。しかし利用法により大変有効なものです。長い絶版の間も、図書館等で多く用いられてきました。

復刻版には埃雅に始まる42,000名を収録、第5巻が年表・系譜・索引となっています。誰が

どの文献に、どの様に書かれているか。引用文の生き生きとした表現に、興味は尽きません。

文語体、旧かなづかいですが、慣れると気にならないでしょう。初版も復刻されましたが、館には用意がありません。初版は、引用文献、人名選択等、田口博士の息吹きを感じます。

② 日本人名大事典 全7巻 (平凡社 昭54)

これも親版のある事典です。平凡社は昭和16年に新撰大人名事典全10巻を発行しました。これは外国人名も含み、日本では一番大きい人名事典でした。戦後も増補され、昭和32年の縮刷版には73,000名を取録しています。

この事典は、それまでに多く見られたいわゆる成書抜萃という作成方法を改めて、新しい立場で編纂されたもので、①の大日本人名辞書などとは根本的に異なるのです。しかし両書はそれぞれ人名事典の基本資料として、相援け、相補いつつ利用されています。誰の項目を誰が執筆したかと興味が湧くほど、多くの人々によって個性的な人物紹介がなされている事典です。

全巻の構成は、昭和16年の初版1～6巻(日本の史上人物50,000名)より、朝鮮・台湾の人名を削除し、各項の年紀を皇紀より西紀に統一して復刻したものの6冊。その補巻として、昭和13年より53年までの物故者6,000名を取録したものの1冊です。現存者は対象とされません。この事典が現在では最新最大の日本人名事典であります。巻頭は相生五衛門になっています。

より簡単により早く小事典

前述した大冊の事典を必要としない、最小限の知識や、何かの事柄の確認だけなどの利用には、もっと簡便な事典が適当であります。

③ 新版世界人名辞典 日本編(東京堂出版 昭48)があります。大類伸監修の世界人名辞典 東洋編(昭27)の中から、日本人名のみを抜き出し、更に新しい編者によって、新しい人名を追加したもので、会沢安に始まる7,000名が取録されています。

④ コンサイス人名辞典 日本編(三省堂 昭51)

相生由太郎に始まる13,000名を取録、半数を近、現代の人名にあて、殊に現代では対象分野を拡大するなどの試みが見られます。

③④の2冊とも、各項のぜい肉をそいだ短文は、大変事務的な印象で「まるで事典を読む」ようですが、人名構成と内容とは、2冊ともコンパクトな人名事典の代表としての評価があり考えられない部数が発行されています。しかし伊藤整をひくと③は「いとうひとし」だけ、④には「いとうせい」「いとうひとし」両方が見られます。③ではジョイスの影響を受けたとありますが、④にはそうした記入が無く③にはない菊池寛賞受賞や全集にも触れています。

また藤原顕光の没年記録は、

③1,021(治安1)年 ④1,027(万寿4)年となっています。これらは決して単純な欠落や誤植ではなく、それぞれの事典の編集方針や編纂者の見識による、いわば根拠のある相違なのです。この2冊を比較すると数百項の著しい相違と、驚くほど類似したより多くの項目が見られるのですが、事典などの資料によって、人物人名を調べる難儀さと楽しさが解るではありませんか。この2冊、③には東洋編と西洋編が、④には外国編がそれぞれ出版され、まとめて眺めると、両者の特色がより著しくなりますがここでは書きません。

現代(行ってしまった人・行かない人)

外国人名をも含みますが、日本人名を採る資料として、同時代事典として次のものがよく用いられます。

⑤ 現代世界人名辞典 (平凡社 昭24)

青木富太郎、阿部真琴他編。取録人名4,000名その半数が日本人です。アイケルバーガーが巻頭で、本書の編集された時代の空気をまざまざと感じさせられます。アイケルバーガーは、陸軍中将、日本占領米軍の次席指揮官で横濱を占領していました。ともあれこの事典は、平凡社が豊富な資料によって、各項にすぐれた説明を付し、多くの項目が今日でも利用価値を失いません。処分せずに書架に並べている図書館が

多いのは、その辺の理由によります。特色は要点をつかんだ簡潔な説明文で、日本人の最初に会津八一の名が出て来ます。

⑥現代人物事典 朝日新聞社編・発行(昭52)
 醍醐(飯島孝雄)に始まる6,700名を収録、うち4,000名が日本人です。社内の1線資料を基礎として、人物選定・項目大小等の委員会を設けるなど新聞社らしい発想と作業でまとめ、全体の調整に意を用いたユニークな資料です。

収録の対象人物は、戦後(1945～)生存していたことが条件とされ、一種の戦後人物事典となっているので、小林多喜二がなくて、イタイイタイ病の小林純があったりするのです。

人名総索引15,000名は収録人名よりも多く、これは項目にない人名でも、誰かの項目中に登場すると出す、例えば角川源義が中学2年の時に一茶の伝記を書いた、そのことだけで索引に小林一茶の名があります。索引には事項索引もあり、例えば三島事件一益田兼利というようにある事柄に関係の深い人物を調べることが出来ます。この事典により益田陸将が三島由紀夫に総監室を占拠され、自らも監禁された責任をとり、翌月退職したことが解ります。これらの索引や、多彩な執筆による各項が詳細かつ个性的であることが特色であります。充分に手を重ねた跡が見られます。愛川欽也、なかにし礼などが新聞社事典らしさを思わせませす。

このように同じ現代事典でも、単に30年の差だけでない、もっと本質的な相違があります。それらをよくつかんで上手に事典を利用することが、人物・人名を調べるコツでもあります。

現代人名事典などといわれるものは、多くは編纂時の時代を代表する人物構成となり、大冊のものでも重版時に加除されることが多く見られますが、明治過去帳、大正過去帳などは、それぞれに1度収録した人名を削除しないことを基本として、今日ではもう忘れられた人物をも項目に留めて居り、人名事典の一つのあり方を示します。これは国民過去帳明治之巻(昭10)

から昭和過去帳にいたる物故人名事典で、中でも大正過去帳は類書に見られぬ人物構成が役に立ちます。現存者事典で過去の人物は調べられず、物故者事典には現在活躍中の人は含まれない。時代を限定したもの、国や地方を定めて対象人物を選定したもの……単なる規模の大小以外にも、色々な種類の事典がありますから、資料をよく選んで利用しましょう。

古代史の1等資料

⑦日本古代人名辞典 全7巻(吉川弘文館)

竹内理三、山田英雄、平野邦雄編。3人の学究がそれぞれカードを作っていた仕事を持寄り編纂を続けたもので、30年に及ぶ作業です。出版は昭33～52年と逐次行われました。

日本書紀以下、古代より天応にいたる関係文献(収録100点余、参考40点)より、人物を抜き出したもので、対象人物の記事とその出典を明記した大事典です。

【太朝臣安麻呂】書紀、古事記の編者。安万侶にもつくる(古事記序)。慶雲元・正、正六下より従五下に叙せられ、和銅四・四正五下より正五上に昇叙した(統紀)。和銅四・九詔をうけ神田阿礼の誦する勅語旧辞を撰録し、同五・正、三巻に録して献上した。時に正五上、勲五等(古事記序)。靈龜元・正、従四下となり、同二・九氏長となつた。養老七・七卒した。時に民部卿(統紀)。日本書紀は舍人親王と太朝臣安麻呂

安拜常麻呂を巻頭に22,000名が収録されています。非常に丹念にまとめられていて、規模と内容と言い他に例がなく、古代のみならず時代別人名事典の白眉とも言えます。最終巻に索引(頭字総索引、頭字音索引)と増補とがありますが、更に追いかけて事項別索引が発行されます。階級などを問わずに収録された人物と

その略伝は、史学・文学を中心に各分野で活用出来ますし、更に引用文献を新しい角度で考えさせます。凡例をよく読んで利用に慣れると、何通りもの使い方が出来て便利です。

この細部に及ぶ出典記入は、成書引用の好事例として、各方面から完結が待たれ、図書館でも出版継続中に「何故全巻を揃えないのか」と多くの利用者から指摘されていたものであります。

姓氏不明の場合など

人名事典は、殆どの場合姓氏でひくのですが、名によるものもあります。

⑧ 日本人名辞典 芳賀矢一編 (思文閣 昭47)

大正13年に発行された資料の復刻版です。名(号・通称も含む)より知られていない人、名の方が有名な人、姓の無い人、または調べたい人物の姓を忘れた場合などに大変便利です。

「ツルさん」「カメさん」で検索できます。鶴も亀も多数収録され、マサツグー正次だけで50名も並んでいます。姓の無い正次も含まれますから、便利さがわかります。

埃雅に始まる約60,000名を収録し、全部名で探せますが、やっぱり姓で探すことにした人のため姓氏索引、名の読み方を知らない人には字画索引が付いています。特色は記述が短いことで、生没年の無い記事もあり、編者はそれを方針として、出来るだけ多数の人名を取めたいと語っています。また本文の白いところにどどん人名を加えたので、一部見出し配列が順を踏んでいません。しかし名だけで探せる人名事典は有効で、本書によって人探しの泥沼から上られることがあります。無論類書を併用します。比較的無名の人も多く収録されました。

時に人名は奇なる読み方をする場合が多く、そんな場合には、難読奇姓辞典、難読姓氏、名乗辞典など便利なものがあります。姓とくると家系となります。このあたり人物事典でも人名辞典でもありませんが、姓氏家系大辞典、新編姓氏家系辞書、系図綜覧、日本系譜綜覧など、

また尊卑分脈、公卿補任、公卿辞典、諸家知譜拙記、寛政重修諸家譜、藩翰譜、断家譜と克明な資料があります。天皇紀もさきほどの武鑑も集成復刻されています。

今まで何冊か紹介した事典は、主に1人1人の人物を対象に人名から探すものでした。武鑑や職員録のように職務から個人を探す資料や、特定の条件で人名を探す資料などがあります。

人事興信録、全国高所得者名簿、専門別大学研究者・研究題目総覧、上下水道関係人名録などがその例で種類が豊富です。グループの中の個人を探す資料では、皆さんの持っている同窓会名簿など良い例でしょう。

異色の労作

次の資料は、今迄のものとは異なるタイプです。

⑨ 近世人名録集成 全5巻 (勉誠社 昭51)

森銃三、中島理寿編。これは一般的な人名事典ではなく、江戸時代の各種人名録を文字通り集成して、地域別2巻分野別2巻とし、資料をそのまま写真版としたもので、巻頭平安人物志以下64点の文献が収録されています。収録資料の半数が始めて紹介された文献で大変興味深いものです。国文学専攻者でなくとも、集成中の古今墨蹟鑑定便覧に見られる知名人の署名、花押、印章などや、左右頁一対に見事に構成された浪華拵芳譜など、視覚的にひしひしと寄せてくるものに接する喜びがありましょう。

しかし本書が注目される理由は、最終巻の別称索引にあります。この集成に含まれる文献中の人物は、当時の慣いとして名・字・号・通称を持ち、その上に修姓があり、誰やら何やら同称異人もあって戸惑うのですが、この別称索引がそれらを補います。一、二引例しますと姓では「大田南畝」～覃、子裙、蜀山、蜀山人、杏花園、遠桜、遠桜山人、石南齋、四方赤良、四方先生、直二郎、直次郎、八七左衛門。「別姓」田、と全部出ています。別称の項で春は
春→中御門宗條 春→立原春子
春→佐々木志津麿 春→松村月溪

春→波留女 春→島津義弘

春→清水松蔵 春→細川持之

と容易に知ることが出来ます。

これらは、この近世人名録集成の索引としてだけではなく、より広く近世人名の別称などを「姓名→別称」相互に検索出来る資料として活用されています。このような貴重な資料を、信頼度の高い人名事典、または国史や国文の専門事典と併用すると思いがけぬ発見があります。

別称索引巻には、他に集成収録資料の総目録と解題がありますが、始めて紹介されたものが多いだけに、つぼを押えた短い説明と、収録資料ごとの翻刻書や文献名の案内などに、編者の心づかいが思われます。

人名事典と人名録

人名録は、一般に畠山箕山の顯伝明名録あたりが古いとされますが、東西新旧の類書を手にとっていると、「どの資料に当たってもこの程度より書いていないなあ」と一種茫洋とした感じと、こんな大昔の無名の人が30行も説明されていると、複数文献でチェックし得た喜び、矛盾する心境がしばしば交差します。赤顔ひげ濃しーとあれば、名前に似合わぬとか調べものから脱線します。ひげと言え、人物・人名事典に顔があると、興味やますのですが、余り用いられません。予算以外にも理由があるそうです。

大きなところで②の平凡社の大事典に、よく選ばれた図版が多数用いられている程度です。

内容の性質上復刻版が多いのですが、復刻版は人名見出しのかなづかいを注意しましょう。イハター岩田、オホキ一井など旧かなです。

そろそろ紙が無くなりました。分野別人名事典を紹介出来ません。分野別で種類の多いのは文学関係で、現代作家辞典、俳諧人名辞典、日本文学青年表など便利なものが豊富です。更に芭蕉事典、島崎藤村事典と個人を主題としたもの、日本文学作品人名辞典、近代名作モデル事典と作中人物を対象としたものなどありますがどれも特殊な資料となります。分野別では事典以外の日本博士録、日本医籍録のような名簿的

な資料が多いことも目立ちます。

執筆者一般としますならば、著作権台帳（文化人名録）、現代日本執筆者大事典、人物書誌索引があり、もっと距離を置くと日本文物文献目録、人物文献索引なども使用しますが、何れも書誌的要素の方が濃くなっています。

その他、殆どどの地方に藩や県単位の人名事典があって、内容のしっかりしたものが多く、仙台人名大辞書や備前岡山人名彙海などが良い例です。時代を区切った戦国人名辞典、明治維新人物事典など、それなりに役立ちます。地方や時代を限定した資料には、一般事典に出ていない人名や説明が見られることもあります。

人名と言うか？例えば阪東太郎などは日本擬人名辞典、擬人名辞典で調べるのですね。

終りに……ある程度の知名人物は、専門事典（例 日本文学大辞典）、百科事典の項目でも調べられます。専門事典など人名辞典より詳しく数頁の項目もあります。専門事典や年鑑には、項目の他に普通は人名事典が編集されている例が多く見られます。現代人名録（朝日年鑑、毎日年鑑、読売年鑑、時事年鑑）、国学者伝統系譜（日本歴史事典）、英語英米文学関係人名録（英語年鑑）、キリスト教関係人名録（キリスト教年鑑）。雑誌にもあります、平安女流文学者総覧（国文学解釈と鑑賞）や、俳人名簿（俳句研究）、歌舞伎俳優名鑑（演劇界）などがそれぞれです。

人物・人名を採る資料も方法も、まだまだありますので、図書館の資料を存分に利用して下さい。紹介した資料の短所は、あまり書きませんでした。人物・人名に関する資料ほど、内容の相違が目立つ分野も例が無いでしょう。要は個々の資料の特色をよくつかみ、複数資料を上手に用いて対比確認、または併用補訂することが、正確な調査の第1歩になります。外国語で書かれた日本人名資料は省略しました。外国人名については、別な機会があることでしょう。

現代への戦いと共感と

— ジュリアン・グリーン全集 —

ジュリアン・グリーン 작품을絵にするならば、如何なる風景が描かれるであろうか？

同性愛、狂気、自殺、殺人、どの作品にも人間が生きていることの、死んで行くための業が重苦しく書かれているのである。肉欲と倦怠、恐怖と憎悪、孤独と絶望などがそれである。

「モイラ」（遠藤周作がしばしば語る）この作品の中で、主人公の青年ジョセフは、自己の強い肉欲を恐れ、誘惑者である女性を諸悪の根源と考えて憎んでいる。黒人と白人との混血女モイラは、悪徳と肉欲との象徴とされ、このジョセフを誘惑し、やがて殺される。死体はジョセフの手によって、雪の中に埋められる。周囲の樹々から雪が舞い、地上は白くなってゆく。—— 代表的な主題と展開であるが、「モイラ」の中でグリーンは、息苦しいほどに人間の営みと肉の苦しみを、青年ジョセフによって語り、人間の背負う弱さと罪、神の恩寵を指向する心の美しさと努力を、混血のモイラの黒い血と白い血が象徴する。破局、しかし破局の上に、地上の汚れを隠しすべての痕跡を消すかのように雪が降り続く。

これらに見られる人間の描写は、ことごとくグリーンの心の歴史と読んでも良い。全集に含



まれる日記抄によっても明らかである。

フランソワ・モリヤックの言う「墮落している人間のうちの隠れた潔さを照し出す」ことを自分の（創作のみではなく）存在のすべてにかけた作家の全集である。その視野からグリーンは現代の不毛と荒廃を責め、ペンで戦っている。そしてまたそ

の中に生きる者として、現代に共鳴し俱に歩もうと、積極的に身を挺している。

カトリシズムを離れ、また戻って来た遍歴は全集中の作品により、理解することが出来るであろう。全集第1期7巻、他者、漂流物など初めて紹介される作品が含まれる。時に空しく、時に雄々しい人間像と、永遠にして至高なる存在との関係——グリーンは、それを愛と呼び汚濁の中から諷いあげたのである。

全集は人文書院版。第1巻「アドリエンス・ムジュラ」新庄嘉章訳は、昭和11年同訳者により、日本で始めて出版されたもの。3巻「ヴァルーナ」6巻「他者」グリーンの内部の投影。4巻「モイラ」7巻「日記」が、長い間高く評価されている。

余 録

特集「人物・人名の探し方」は、女性にふれていません。女子大学の館報だと言うのに、そこで大日本女性人名辞書（厚生閣）をあげましょう。高群逸枝編著、そのライフ・ワークであった女性史研究のために、蒐集調査した資料をもとに作られました。女性人名事典として最初に公刊されたものです。古代より現代（戦前）まで歴史上の、あるいは社会的に著名な女性を、天照大神ほか約2,000名収録解説したもので、出典が明記されています。収録人名は、50項あまりの独特な分類が行われ、政治・社会運動など当然としても、美人・毒婦などの項目もあります。あちこちに著者の視角、感性、批判が感じられます。昭11年刊。

書齋訪問

山崎治子先生

(被服整理・被服衛生)

今回の訪問に際して気さくにお話下さった先生の研究室は、旧館2階、被服実験室隣の細長い204番の部屋。そこには多くの実験器具や薬品棚が立ち並ぶ。その一角に机と書棚が。その中には本や様々な資料が色別バインダーに綴られ整然と収められている。1年に何度か整理を行い古くなった雑誌や文献の入替、新しい資料は種々の主題に分けられて書棚の所定の位置や、カード化されて机の中へ。まさに研究者にとっては大変なこの整理作業をいとも簡単になさっておられる。

若い頃、希望に燃えて入られた藤女子専門学校国語科1年の時に、脊椎カリエスの診断を受け、寝たきりで7年、更にコルセットを付けた2年間を含めると、およそ10年近く、青春の大半をベッドで過ごされた。いくたびかの大手術で死と直面した生活が、物への執着心を克服し、それ以来、現在においても必要なものの整理を心掛けるようになったと言う。

しかし、無類の本好き、それもその筈で、読書家のお父様やお兄様の影響を受け、家の中にある本を手当たり次第に読んだ少女時代。長い闘病生活では1日の大半が読書であったと言う。朝、NHKラジオ番組の『私の本棚』で世界の名作に耳を傾けた後、日中は自分の読書。夜には付添の小母さん達に山崎治子独演会、吉川英治原作「宮本武蔵」などを朗読するのが恒例であったと言う。入院して最初に読んだドストエフスキーの「罪と罰」に刺激され宗教への関心を深め、又、倉田百三の「出家とその弟子」や山本有三の「波」の人間観に心引かれたのもやはり恋愛、友情、結婚について関心があったからでしょうと言われる。

コルセットを付けて歩けるようになった頃、故・牧野しをり先生(牧野キク様妹)から再三



家政学の勉強を勧められ、それがきっかけで、後に実践女子大学家政学部で被服学を専攻し、卒業することになったと言う。「家政科は料理と裁縫をする科であると言う風に、大分誤解されていると思います。世界の家政

学の指導的立場にあるアメリカのコーネル大学は家政学の名称を改め、『生態学』(Human Ecology)に変えているのを筆頭に、他に、『人間の発達と消費科学』など約30%以上の大学が、その内容にふさわしい名称に変えています。人間中心の学問分野であると言う事を私達ももっと皆さんに知っていただけるように努力しなければならないのでしょうか。」と語る顔に確かに求めていられたものを見つけられた事が伝わって来るようであった。

読書の傾向も徐々に変わって来ていると言う。求めるものに会った喜びは大きい。1冊だけあげるとすれば、ル・フォールの「永遠の女性」であると言う。学生の為に何か言って下さいとお願いしたところ、「良い人と良い本に出会う事。そして、したい事のある生活。(例えば、趣味、仕事、スポーツ、クラブ活動、奉仕など。)あれは良いですね」と仰る。この頃は、犬養道子さんのものを読んでおられると言う。

読書の他、ご趣味も多く、映画・演劇・音楽等の鑑賞や、子供の頃から続けておられるお茶を楽しむ事もあると言う。

話しても尽きない溢れるばかりのお話に楽しい一時を過ごさせていただいた。現在は、共同研究や「北海道百科事典」の「衣」の項目委員として執筆調査にご多忙な先生だが、相談事など気軽に話に乗って下さる方という印象を強く持った。皆さんも1度、ドアをたたかれていますか？

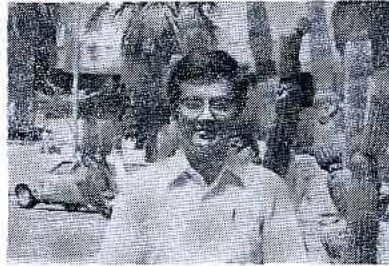
高橋雅晴先生

(英語学)

お若くて、スポーツマンとのもっばらの噂の高橋先生。大学時代はスポーツがお好きで様々なものをしたとの事であるが、現在は体の故障でそれからも遠ざかっているとか。残念そうに話される先生である。

5階東側の研究室は書棚も机も本に占領され、その処理に困っているとは、どこも皆同じようである。新しいものはほとんど買うようにしておられるが、なかなか目を通す時間がないと言われる。側にないと困る資料の増加で時間も空間も足りないようである。もちろん資料はほとんどが専門分野、英語学関係書。特に授業に関するものの割合も多く、音声学や文法書、又、他の言語学、聖書関係など各段ごとにおよそ区分されている。

語学と言うと一見取っ付きづらさを感じるものであるが、それを専攻された訳を尋ねると、答はこうであった。大学時代、最初はご多聞に漏れず文学書を愛読。ロシア文学、フランス文学、イギリス文学、アメリカ文学などの世界文学を。中でも特にロシア文学がお好きだったとか。しかし、あるロシア文学史の講義の中で文学作品は、その芸術的完成度が問題とされると言う言葉を聞き、文学のむずかしさを知ったと言う。それが語学へ進んだ理由と言われる。つまり語学は、自分の出来る範囲で、地味ではあるが、時間と根気を持って、コツコツやる事によって消化できるもの。自分にとってはより適当な学問分野と思われたと言う。文学作品はその人物の体験を通して胸の高なりを覚えるのであるが、語学もそれに劣らず、学者の調べ方、それから導き出される結論、その過程に心ワクワクすると言うのである。決して無味乾燥ではなく面白いものである。例えば、英語の語源を解説した本などは非常に興味深い。「英語千一



夜」「ハンディー語源辞典」など、日頃見慣れている単語を引いてみる事によって思いがけない発見をし、新鮮さを覚えるものであると言う。いまだに先生にとっても新しい言葉の発見があると言うのである。

見があると言うのである。

ご専門は英語学。その中でも特に英語史で、音がどう変わったか、文法的な変化は、など古代英語から中世英語、そして現代英語まで、と広い語学力が要求される分野。古代英語の研究書には1語1語の調べた事項の書込で真黒とか。しかし、やり方、手続さえ踏んで行えば決して卒論にとる事もむずかしくはないと言う。狭い範囲で行えば十分書きあげられると言うのである。卒論にとる学生のためにその材料も揃えているとか。誰か、この先生の期待に答える学生諸君はいないのであろうか。

昨年1年間、アメリカ、アリゾナ大学でご研究。かたわら、授業も聴講されたと言う。授業では特に印象に残ったのが私語のなさ、良く質問し、根気よく手を上げる事。咳込んだ学生が即座に廊下に出て、咳の静まるのを待つなどの光景を見て当然の事ではあるが、その点において学生自体が大変大人だと思われたとか。図書館の利用も非常に良く、そこを根拠に学生は授業に出ると言う。蔵書も多く、快適な場所であったと言う。

今はご研究一筋の先生だが、余暇には区民センターの図書室なども利用され、新刊書やカッパックスなどを読まれると言う。ご専門からは比較的遠い歴史書や宗教関係書など。とは言えそれもつきつめるとご専門と関連するものがほとんどのよう。そんな一時、疲れた頭を休ませる現在の趣味は庭いじりとか。今年は先生ご自慢の野菜も食卓を賑わせたと言う事。知らない高橋先生の一面を垣間見た思いがした。

※写真は1978年夏アリゾナ大学キャンパスにて

近世日本庶民像をたずねて

— 日本庶民生活史料集成 三一書房 —

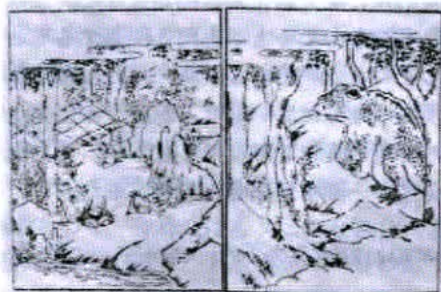
従来、史料集といえば、歴代政府公庁の文書や記録、六国史その他の官撰私撰史書、上級武士・公家・神官僧侶などいわゆる知識人の著作などを編纂刊行した例が多かった。それも、歴史のダイナミズムに直接触れた内容のものが殆んどで、それらによって組み立てられた歴史は、即ち支配者の歴史であったとしても過言ではないだろう。歴史のうねり流れるさまを如実に感じさせる意味において、支配者のそれは確かに興味尽きないところがある。しかし、その歴史を現実生きた大多数は、庶民大衆と一括される名も顔も時空のかなたにけしとんでしまった人々であったことを忘れてはなるまい。その庶民の生きざまを明らかにする企ては、民間伝承論に発した日本民俗学や、太平洋戦争後の日本史学、また、戦前からの地方文化発掘の努力の中に見ることができるが、ここに紹介する『日本庶民生活史料集成』は、それらの成果の上に立った記念碑的な史料集と言えるだろう。

昭和43年に全10巻の構成で出発したこの叢書は、その後の好評に支えられて現在第3期目に入り、最終的にはB5判平均800頁全30巻の膨大な史料集となる。取めるところは主として江戸時代から明治中期に及ぶ約500タイトルの書物・記録などであり、すべて新組活字翻刻、図版を有するものは単色ではあるが可能な限り収録している。既に稀覯となった書からの再録はもとより、これによって初めて活字化されるもの少なしとせず、この叢書の価値を一層高くし

ている。集中5巻を占める探検・紀行・地誌の諸書により、想像を超える広汎詳細な見聞と、それを可能にした先人の心身両面におけるタフネスに一驚するであろうし、漂流、一揆、飢饉・悪疫、騒擾の諸巻によって、過酷な種々相での人間像に触れ、多くの思いをなすだろう。また見聞記、風俗、世相、奇談・紀聞などの諸巻は、当時の人々の日常をほうふつとさせてくれるに違いない。その他、民間芸能には幸若舞・説経・狂言など、民間宗教にはキリシタン関係書、南島古謡にはオモロ・鳥歌、三国交流誌には老松堂日本行録などがあって、歴史に限らず幅広い史料集として利用価値が大きい。江戸時代の百科事典として著名であり、いまだに基本図書の一つに挙げられている倭漢三才図会が、より読みやすい形で取められるのも大きな喜びである。また、さしせまった研究の材料としてではなく、折にふれ興にまかせてこの叢書をひもとくことは、読者の心に豊かさを与える機会となるだろう。

版元の三一書房では、この種の企画に意欲的で、戦前の民俗学の一大成果ともいべきアチック・ミュージアムの報告書を再編した『日本常民生活資料叢書』全24巻（本館未所蔵）や、これも新史料を多数とり入れた『日本庶民文化史料集成』全15巻別巻1を刊行、いずれも完結している。ことに後者は今後の日本文化史・芸能史研究の根本史料集として、欠くべからざる存在となるに違いない。

最後に、史料集ではないが、庶民像を描いた労作として、また、この類いの嚆矢として『日本残酷物語』（平凡社 昭34—36 全7巻）の名を挙げておく。社会の底辺に生きる人々を、おさえた筆致で見事に綴り、深い感動を覚えさせる。現在では読む人も少ないようだが、過去現在未来、我々自身の姿をうつすものとして忘れられない書である。



学生の声

図書館との出会い

文英2年 牧野美枝

高校の頃まで私は、あまり図書館という場所に馴染みがなかった。それには二つの理由がある。一つは、私が自分の読んだ本に対し極度の執着心があること。もう一つは本を読むための無風無時空間が欲しかったことである。

私はいつでも本を読むと、それがどんな本であれ自分の本棚に立てておきたいと思う。好きな一節には線を施したいし、後に頁を繰ってみた時に私がどんな時読んだかがわかるよう日付けも付しておきたい。そして大切にしたい事は、本がそこに存在するだけでさまざまな想いを甦えらせてくれることだ。一冊一冊の本が日記の一頁一頁のように私の大切な過去なのだ。だから読んでも手元に残らない時には、今まで隙間なく埋めてきた日記の一頁をぽっかり白紙のまま空けてしまうような気がしてしまう。それで必然的に図書館から本を借りて読むということはまれになっていた。



この感覚は今でも変わらないが、それでも大学に入ってからの私の図書館への姿勢は変わった。この図書館には私の望む空間がある。南の窓際には暖かいぬくもりがあり、そして静けさが漂う。そして何よりも変わったのは、本に対する私の姿勢が能動的になったことだ。自分一人でもどこを探しても見つからずに諦めてしまった本が、ここではありとあらゆる手段で取り寄せられる。自分一人では集め切れない資料も一言の相談で手配できる。だから自然と自分の方からこういったものはないだろうかと求めるようになる。受動的に本棚をただ眺めまわしていた頃とは比べものにならない進展だった。

今は、これを一步に、これからもより書物との有意義な交流を続けていきたいと思う。そして又同時に、図書館と私との出会いを取り持つて下さった司書の方々に感謝の意を表します。

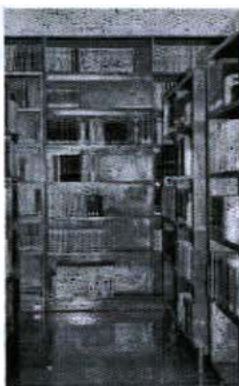
白魚の食し方もあり随筆大成

江戸の昔より随筆と称せられるものあり、西洋流のそれに非ずして、己が読書の抜粋、寓目せる風物、耳に遺りたる話柄、研鑽の余滴、紀行、論評、考証等々、内容はこれ種々雑多、筆にまかせて細大洩らさず、備忘を要とし、上梓を想はず、伝へて奇また珍となすもの多し、昭代の初め、それらを輯めて一の叢書を編み、名付けて日本随筆大成と称し、三期に分かつて全四十一冊を公けにす、当時聊かの評判を得たりと雖も、半百の星霜は、移ってこれが普及を妨ぐ、即ち、書肆吉川弘文館、惜しみて新版を企図し、編を革め全三期七十一冊、加へて別巻十冊となし、陸續刊行、今春日出度く完結の実を挙げ、新は旧に比し原本対校厳かつ密、章節遺漏若干を補ふ、また、用字を改めたる、一は当代読者の便を計らんが為なり、嬉遊笑覧、江戸雀、南留別志、塩尻、醒睡笑等を初め、収めるところ二百八十有余種、白石、定信、秋成、宣長、羅山、徂徠、種彦、南畝、馬琴他、綺羅星の如き名を連ぬ、史家の好参考書あり、文学、落語のタネ本見るあり、もつて江戸学芸の万華鏡、話の宝庫、知識の淵源とするも故なしとせず、読書三絶に値す、近時、江戸随筆の版行隆盛にして、他に未刊随筆百種、燕石十種等の復刊、また、随筆百花苑、本大成続篇等の新企画これあり、希はくは諸姉、試みにこれら随筆につき、それが醍醐味を知りたまへと爾云。

千冊余を新しく開架に

掲載の写真のように、閲覧室の壁際にある書架が、全部1段積上げられて、新しく千冊以上の基本図書が備えられ、自由に利用できます。

増加図書は、資料の内容や利用状況などを充分検討して選ばれたもので、略目録が出納台など館内各所にありますから、参考にして下さい。なお年度内に、書架約30連が増設されます。



のABC順に、それぞれの誌名見出しのもとに並べられています。閲覧室・書庫の全雑誌を対象としたカードも出納台に準備されていますので係員にお話し下さい。

紀要・報文等の受贈や交換も増えています。新設の道都大学紀要(美術学部)(社会福祉学部)、遠方から人文(鹿児島短大)など今年も新規に何十点か書架に並びました。現役の研究者の研究や調査報告が掲載されています。

ノートルダム清心女子大学キリスト教文化研究所年報、英文学論叢(日大)、北海道科学研究費による一般研究報告概要、正倉院年報、児童文化研究所年報と多彩なものです。中には個人を対象としたウィリアム・フォークナーという研究誌もあります。

雑誌が増えています

お気づきでしょう、閲覧室の雑誌書架が積上げられ、バックナンバーの合本が増加し、欠巻欠号分も補充されています。最近の増加誌から使用者、啄木研究、乳幼児の教育、古文書研究など目立ちます。何れも創刊号よりです。ほかに日本児童文学(54年1月より)ミセスなども継続されます。

主なバックナンバーでは、至上律、風報、日本未来派、文芸展望、人間として、社会教育、教育、ドキュメンテーション研究、詩行動、詩作があり、三田文学、無産者新聞の復刻版も継続されています。一部欠号や整理中のものなどもありますから、利用の際には係員に声をかけて下さい。近頃は雑誌の係も出納台で作業をしているのをよく見かけます。

閲覧室にある雑誌のバックナンバーも、誌名

声をかけて下さい

借りた本の落ちた頁や、背の破れ、見返しのいたみなどを、セロテープなどでこまごまと修理して返して下さいの方がいます。図書館では、そのお気持ちを大変ありがたいことと、感謝をしています。ただし、セロテープやガムテープは、時間がたつと乾燥して接着力を失い、テープが貼られた部分の紙は、成分が変化してもろけたり、破れてしまったりします。そうなるとそのまま補修できません。どうぞ借りた本のいたみにお気づきの際には、そのままそっと利用して、返却時に係員に教えて下さいませんか。大変助かります。殊に頁の落ちそうな場合など、すぐ手配をすることができます。よろしくお願ひします。